わべだけのやっているふりではなく、勉強と趣味のバランスをしっかりできる人が大人になっても上手くいくんだと思いました。
　今回の講義を聞いて、放射線の仕組みや人体に及ぼす影響を詳しく知ることができ、放射線に対する考え方も変わりました。今回学んだことを今後の自分の生活や行動に活かしていきたいです。

小野　龍哉（3512）

　自分は物理選択ですが、DNAの傷について興味をもったので、この講座を受講することにしました。まず、DNAの前に放射線について詳しく知ることができました。放射線は光と似ているが物体を通過するというもので、さらに放射線には単位がいくつか存在することがわかりました。一つはBq（ベクレル）という単位で、これは放射性物質がもつ放射能の強さで、例はりんごの木に実っているりんごの数です。二つ目はGy（グレイ）という単位で、人や物に吸収された放射線の強さで、例でいうと木に実ったりんごが木の下にいる人に落ちた数です。三つ目はSv（シーベルト）という単位で、人への影響の強さを示し、例は落ちたりんごが人のどの部分に当たったのかを示すものでした。聞いたことはあったけど、意味は知らなかったので知ることができてとてもおもしろかったです。
　次に身の回りの放射線について知りました。まず宇宙空間には、すぐ被ばくしてしまうほどの放射能が存在し、地球には〇・三mSv／年間の放射線がきてるそうです。その他にも地面やラジウム温泉からも放射線はきているみたいで、一番驚いたのは食べ物からも放射線を受けていて、特に海そう類やほうれん草、バナナなどが放射線を多く含んでいるということにすごく驚きました。これらを含めると日本では約一・五mSvの放射線を毎年浴びているということになるそうです。そして放射能を浴びると何が起きるかについて知りました。DNAが傷つき、普段、結合していたものとは別のものが結合したり、DNAをつなげている二本線が切れてしまうなどのことが起こるそうです。切れてしまっても修復機能はちゃんとあるが、中にはその機能をもっておらず、若くして死んでしまったという例もあり、少し怖かったです。でもこのことを生かして放射線でがんを治療することができ、可視化して放射線でDNAを傷つけ、がん細胞を殺すということができ、さらに放射線を使ってじゃがいもの発芽を予防できるということにとても驚きました。放射線をあび続けることはDNAを多く傷つけてしまうことになり、良いことではないが、がん治療のように人の身体に傷をつけることなく治療できるのはとても魅力的なことだと思いました。
　講師の中村先生が弟の糖尿病をきっかけに薬学の道へと進み、原因をたどっていくうちにDNAや放射線にたどりつき、アメリカへいって学んだということを聞いて自分がやりたいことにそこまで夢中になれて本当にすごいなと思いました。この講義を受けて、DNAや放射線の話もすごくおもしろかったけど、将来について考えることもできたので良かったです。

グローバリゼーションと文学、そして村上春樹

宇都宮大学 国際学部　丁　貴連　先生

鈴木　天音（2215）

　今日の講義を受けて、自分がまず村上春樹についてのことをほとんど何も知らないことに気がつきました。講義を受ける前までは、新作が発売されると店の前に行列をつくるほど人気で、難しい文章を書く人だという認識でした。人気なのは事実ですが、それは芥川賞などの賞をとってマスコミに注目されたことによって、賞をとったのだからおもしろい、いい作品なのだろうと思った人たちが半ば強制されるように読んでいるものだと思っていました。しかし、人気であることにはしっかりとした理由があってそうなっているということが分かりました。最近のグローバル化された社会では、従来の日本文学のような日本独自の文化や価値観、言葉遣いなどが用いられた世界は少し理解し難く、むしろ西洋の文化などの方が理解しやすくしっくりきます。村上春樹の作品は、最近の作品でなくても西洋の文化や価値観を取り入れているので、若者を中心に共感されやすく、多く読まれているのだと思いました。またそれだけではなく、作品を書くごとに社会や経済の変動によって変化した自分の思想や考え方、価値観などを作品に反映させているのも人気である理由の一つだと分かりました。社会、経済の変化など、今まさに起こっていることが反映されているので、より共感を得やすく、分かりやすい文章になっているのだと感じました。さらに、村上春樹の作品がなぜ海外でも人気なのかということについて、こちらもマスコミの影響や日本での人気が影響しているのだと思っていました。まずこうすべきだというモラルを主張しないこと、そして「僕」（私）という一人称を使って主人公の目線で語られているにも関わらず、村上春樹自身の体験が書かれているわけではないということが海外でも人気がある理由の一つであると思います。主人公は家族や国家、民族といった共同体に基盤をもたない個人だ、と聞いて、これが一番の理由だろうと思いました。今でも昔でも、国家間や民族間の争い、思想や宗教の違いによる争いが絶えない。さらに細かくみれば組織ごとの対立や家族・友人関係などもある。そういったものにとらわれない文章というのは現実の苦しさをみることなく、純粋な気持ちで楽しんで読めるだけでなく、彼の文章が好きな者同士で壁を越えてつながることができるのではないかと思います。実際、韓国での反日感情をやわらげたり、イスラエル・パレスチナ間で紛争が続いているにも関わらず、民族間の対立を越えて村上作品が浸透していたりすることを知って驚きました。今日の講義から村上春樹の作品、そして彼自身についてさまざまなことが分かり、今までの自分の認識が大きく違っていたことが分かりました。日本だけではなく世界中で読まれ、愛されているというのは簡単にはできない。とてもすごいことだと思います。今まで難しいと決めつけて読んでこなかった村上春樹の作品を、ぜひ読んでみたいと思いました。また村上春樹に限らず、何となく避けてきた作家の本も積極的に読んで、自分の視野や価値観を広げていきたいと思いました。

西川　愛美（3125）

　今回、村上春樹の作品を通して、世界のグローバル化を考えた。私はこれまで、村上春樹の作品は「海辺のカフカ」と「1Q84」を読んだことがあったが、グローバリゼーションとどんな関係があるのか、全く想像もつかなかった。世界は今や日本文学ブームで、村上春樹が圧倒的に人気があるそうだ。今年に発売されたばかりの「騎士団長殺し」は早くも世界中で翻訳され、たくさんの人に読まれているという。二〇〇六年に開催された国際シンポジウム&ワークショップには、「世界は村上文学をどう読むか」という議題のもとに、翻訳者や研究者が世界中から集まった。丁先生は、なぜ村上春樹はこんなにも多くの人々に読まれているのか、という疑問に対する理由を教えてくださった。第一に、「日本文学に新しいものをもたらしている」から。村上春樹は、従来の文学作品に見られる国家や家族などといった共同体に基盤を置いた小説は書かず、あくまで〝個人〟に基盤を置いている。ただし、個人といっても単なる私小説というわけではなく、ポストモダンの中で豊かさを感じながらも不安や孤独を抱える若者たちの、いわゆるデタッチメント（かかわりのなさ）を強調している。第二に、日本社会のポストモダンを先取りし、世界のグローバル化の先駆けをしたこと。ポストモダンとは一九七〇年代に始まる脱近代のことを言う。この時代には価値観の変化が多く見られた。例えば、若者の政治への無関心、急増する自殺、性に対する意識の変化、恋愛ができず未婚のまま生涯を終える若者…など、それまでに見られなかった若者の姿を、村上春樹はかなり早い段階から取り入れていた。また、村上春樹は小説の中にアメリカンライフスタイルを取り入れ、徹底したグローバル化を図った。確かに、私が読んだ「海辺のカフカ」や「1Q84」の中には歌や曲名、食べ物がたくさん出てきたが、それらの多くは外国の曲や食べ物で、日本のものはほとんどなかったように思う。こうした洋楽や洋食などのアメリカンライフスタイルを取り入れたことも、結果として日本だけでなく外国の若者に受け入れられ、人気となった理由の一つであることが分かった。三つ目は、「自覚的に作品ごとに自己更新する」ことだ。私はこれを聞いて驚いた。丁先生がおっしゃっていたように、多くの作家は自己主張が強く、簡単に自分の価値観や作風を変えないイメージがあったからだ。しかし、村上春樹は日本や世界の近況の変化とともに考え方を変え、若者たちの「分からなさ」、日本社会の「分からなさ」に正面から向き合ってきた。そして従来の「デタッチメント（かかわりのなさ）」を重視した作風から、「コミットメント（かかわり）」を重視した作風へと変化させたのだ。私は、現代社会の出来事を背景として価値観を変えていく村上春樹の柔軟な考え方に深く感心した。また、村上春樹が世界中の人々の考え方を変えたということにもとても驚いた。例えば、「ノルウェーの森」が韓国人の反日感情を一変させたという出来事だ。私は、韓国人に深く根づいた反日感情を、たった本一冊で変えることができるという事実に感動した。そして、文学に国境はないんだと思った。村上文学を通して、共鳴する人々が民族、地域、人種、イデオロギーを超えて一つにつながろうとしている、という丁先生の言葉を聞いて、改めて村上春樹の存在の大きさを感じた。私はまだ村上春樹の作品を二つしか読んだことがないので、デビュー作から読んでいきたいと思った。そして、今回学んだことを生かし、背景にある国際的な問題や事件を自分で考えながら、読んでみたいと思った。

キノコの不思議〜スギヒラタケの毒性物質と冬虫夏草の感染のメカニズム〜

宇都宮大学 バイオサイエンス教育研究センター　鈴木　智大先生

本田　陽大（2509）

　僕はこの講義を、きのこがなんとなくおもしろそうだと考えて選んだだけでしたが、講師の鈴木先生の話できのこの世界の深さを感じました。先生は普段授業をまったくしないタイプの先生で、ずっと研究してるそうなんですが、すごくきのこへの愛が強くて、このように一つのことに熱中できる人と、学びたいことを共に学べたら大学も楽しそうに思えました。

　講義の内容で、特に印象的だったのは、一つ一つのきのこが、それぞれ共通性のない、まったく違った種類の毒をもっていることでした。普段は気にしていませんでしたが、確かに言われてみれば、同じような形で同じように成長をするのに、こうもガラッと変わってしまうのかが不思議でした。先生が講義中に、「じゃあ、どうやって毒があるのか調べますか?」と聞いたとき、ぜんぜん頭に思い浮かばなかったんですが、大学ではそうやって自主的に、なぜ?どうやって?をさがして研究していく力が大切なのではないかと思いました。
　自分も目標の進路を考えると、鈴木先生のように、難しいことでもひたすら研究をして解明しようとする先生がいる所で生活したいと思います。
　今回の講義で、授業を受けて知識を学ぶ勉強だけじゃなくて、自分で気付きから解明させる方法まで考えて最後に結果から学ぶ形の学問が、すごく魅力的に感じました。

太田　将悟（3507）

　普段気にしていないキノコですが偉大なものだと感じられました。キノコは木を分解できる唯一の存在であるという点に魅力を感じました。
　天然物化学という天然物の単離、構造決定、合成を行うことを先生が宝探しといっていて感銘しました。少し条件や構造が違うだけで全く違う物質になってしまう。一つ何か小さなことでも解明すれば様々なことに応用できるという素晴らしさに感動しました。
　また、スギヒラタケというキノコが自分の住む地域で食べられており、毒をもつということに驚きでした。毒キノコの判別クイズであまり正解できなかったのでキノコは採らないようにしたいです。
　自分は生物の構造や性質から、製品をつくったり、発明したりする仕事または絶滅危惧種、生態の保護といった仕事が言葉ではキノコと全く違いますが、これらは密接に関わっていると感じました。私はキノコが人類の希望だと信じています。Comming soon…

「うつ病」治療における薬学の貢献と今後の課題

国際医療福祉大学 薬学部　辻　稔先生

桝井　咲来（2636）

　この講義を受けて薬学や薬剤師について詳しく知ることができました。薬学には、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務、薬理、衛生、化学・生物の七つのさまざまな分野があった。
　私はその中でも薬剤に興味があるのでそれについても、もっと調べていこうと思った。また「うつ病」について、今の私たちは自殺で死んでしまうのが多かったり、うつ病などの気分障害が多いことを知り驚きました。そして、「うつ病」には抗うつ薬という薬があり、それによって症状が軽くなることも知りました。しかし、それらには副作用があったり、うつ病の病態生理が不明だったり長期間飲み続けないと効果が現れなかったり、薬が効く人と効かない人がいるなどのたくさん課題を抱えていることから、自分もそのような課題がどうしたら解決するのかを研究してみたいし、自分で新しい薬を研究したりするのが、おもしろそうだと思いました。薬剤師には薬局薬剤師と病院薬剤師の二つがあることが分かりました。仕事の種類を見てみて、今のところはどちらかというと病院薬剤師に興味を持ちました。どちらもよく調べようと思います。
　薬剤師には専門性があり、認定薬剤師と専門薬剤師があることを知りました。今回は講義でたくさん薬学や薬剤師について知ることができ、明確に自分の方向性が分かりました。病院実務実習や薬局実務実習をぜひやってみたいと思いました。また、たくさん実習ができる大学に行きたいと思いました。

西山　美那（3728）

　今回、この講義を受けて、薬学の中でも分野があり、神経精神薬理学についても少し知ることができた。まず、薬学部のある大学ではどの大学でも約七割はほぼ共通のことを学ぶことができ、残りの約三割はその大学独自の内容を学べるということを知った。国際医療福祉大学では、チーム医療についてくわしく学べるようだ。私は、薬学部ならどの大学も一緒だと思っていたので、自分の志望校についてもっとくわしく調べてみようと思った。次に「うつ病」についてを聞いた。最近「うつ病」のような精神疾患になる人が増えてきており、精神疾患により、自殺も増えているようだ。気分障害には、ずっと気分が落ち込んだ状態になるものと、気分が落ち込む時間と気分が上がる時間の両方があるものに分けられ、治療薬を分けているようだ。しかし、抗うつ薬には副作用があり、うつ病に対する薬物治療には、なぜうつ病になるのか十分に解明されていなかったり、薬を二～四週間飲まないと効かないというように、薬の効果発現が遅かったり、薬の有効率が六〇～七〇%で、三〇～四〇%の患者には薬が効かなかったりというように、まだまだ課題もあるようだ。そして、モデルマウスを実験台にしたストレスについても知った。自分が大学生になったら、薬学を学んで膨大な知識を身につけ、薬剤師に必要なコミュニケーション能力を身につける他に、研究もしなければならないということは、改めて簡単なことではないと分かった。また、もっと詳しく志望校について調べ、視野を広げておこうと思った。

福島・いわきを魅力的にするための都市計画

茨城大学 工学部　金　利昭　先生

千葉　樹（2622）

　今回、金利昭先生の講義を聞いてわかったことがいくつかあった。まずは、都市計画の難しさについてだ。初めはただ単純に「都市計画なんて、こうしたらいいってことを考えて、お偉いさんがそれに金を出すだけだ」と思っていた。しかし、そんなことはなく、一つの計画にたくさんの人や時間、お金、変化による影響と大規模であることがわかった。この大変な大仕事によって、今この社会を快適に過ごして生きていけるんだと改めてわかった。二つ目は、計画を立てる段階でも、様々なことがあるとわかったことです。「Planning」はこれからやることについて戦術的に検討すること。「Plan」はPlanningの結果得られる成案。また、これだけではなく、「基本構想」「基本計画」「実施計画」といったような、都市計画の策定段階も一つ一つ決めていかないとだめなんだとわかった。三つ目は、計画を立てる時に、やるべきことだ。一番最初は、問題発見と目標設定。二番目は現象分析と要因分析に分かれ、それが調査・分析にまとめられること。三番目に代替案作成。四番目、ここで予測が入ってくる。五番目は評価。この一番目から五番目までの一つ一つのことが大切であり、これが部活、勉強などたくさんのことに言えるんだとわかった。四つ目は、老若男女問わず、安全で快適に過ごすためには、町のことをもっと知ることだとわかった。例えば自転車が通る道路のことや、商店街をこのまま残すのかそれとも、潰して区別をはっきりさせるのか、そう言った「見分け」が大切なんだということがしっかりと理解することができた。また、安全に暮らすためには住人がそれぞれ、意識しながら過ごしていかないと実現できないものだとわかった。

　私はこの話を聞いて、思ったことがいくつかあった。一つ目は、都市計画は大きな事で動いているということだ。たくさんの人、莫大なお金、何年もかかる時間。それによって今、ここで自分自身が快適に生きて生活していけることを意識しなければならないと思う。二つ目は、自分自身が都市計画を立てる一人として存在していることだ。都市計画はそこに住む一人の意見や一人の考え方によってとても変化することを知った。その中でそういう考え方をしてもおかしくないのではないかと思った。正直私は、いわき市をもうちょっと活気があって電車のダイヤを変えて増やしてほしいと思っているが、その少しの希望でもたくさんの人の考え方やお金、時間がかかるんだとわかり、悪く言うことがこれからはできないと思った。また、町を安全にするために、道路の規則をしっかりと守ったり、ボランティアや行事などに積極的に参加するだけでも都市計画のように、良い町にするためにできることだと思う。これからは、自分に最低限できることを少しでもやれたらいいと思うし、勉強も部活も都市計画を立てるときみたいに、問題を発見し、それを分析、解決策を出しやってみるということをとにかくくり返しやっていければ、いつか成功していくと思う。きっとその先にも課題はあると思う。その時にも、この経験を活かし、将来の自分につなげられればいいと思った。今、自分にできることを精一杯やって、後々に後悔しないような計画作りをし、来年の受験や目前に迫った新人戦で成果を出したい。

上遠野杏奈（3310）

　道路の幅が狭くて、救急車が通れない道が大きな問題になっていることを知ったが、それらの問題を解決するための再開発という計画が構想から実行まで三〇年もかかると聞いてとても驚いた。都市計画を行うときは、実行の速さと市民全員が納得する案を出すことが大切であると感じた。
　また、今回の講義で土地の区域ごとに、建物の規制があることをはじめて知った。これから街を歩くときは、今自分の歩いている所がどの区域に設定されているのか考えながら歩いてみるのもおもしろいと思った。中央台の住宅地は、各家がとても似ていてどれが誰の家なのか分かりにくいけれど、全体としてとても統一感があって自分的には良い雰囲気の地域だなと思っていた。しかし、とても厳格な規制のもと作られたものであると知った。また、最近歩道などが赤のゴムチップなどになっている所もよく見かけるので、コンクリートと比べてのメリットとデメリットを知りたいと思った。
　修学旅行で京都に行ったときに、バス停に電子看板があって、バスがもう過ぎたかそうでないか一目でわかるようになっていたり、バスの料金がSuicaで払えるようなシステムがあり、とても便利でした。私自身、近くのバス停のバスが一〇分ほど遅れてきたり、遅れるから大丈夫と思って少し早く行くと、時間通りに過ぎてしまっていることがあるので、いわきのバス停にもそういった面の管理ができるようなシステムをつけてほしいと思いました。また、雨の日のバスがとても臭くて、床も滑りやすくて危ないのでその点も改善の余地があると思いました。学生の今だからこそわかる問題を大学に行って、就職するまで忘れないで、いわき市や福島県がより良くなるような都市計画を提案していきたいと思いました。

日本と海外で身体障がい者へ我々のできること、すべきこと

国際医療福祉大学 保健医療学部　石井　博之　先生

蛭田　彩音（2533）

　私は今回の講義を受けて、理学療法士などリハビリテーションに関わることについて色々と知ることができました。今まで理学療法士と作業療法士の違いをよく理解していませんでした。しかし今回の講義で、理学療法士は立ったり、座ったり、起き上がったりなどの日常生活の中で必要とされる基本的な動作能力の回復を図るもので、作業療法士は食事や歯みがき、家事などの応用動作能力と自己管理や対人関係などの向上を図るものであることが分かりました。また、今までは看護や福祉の仕事は国内でやるものであると勝手に思いこんでしまっていましたが、石井先生のように、青年海外協力隊として世界でも活躍することができると知り、驚きました。しかし同時に世界で活躍するという事はその国々の言語を話すことができなければコミュニケーションがとれないので、とても厳しいものであることもよく分かりました。また、ある一つの国に行くとしても、その国で話されている言語は一つだけであるとは限らず、多民族国家